

を優先的にし、なるべく他管内に採用し、県下全域にわたって、教育の能率向上と刷新充実をはかるよう努めた。

選考にあたっては、校長採用志願者全員に対して、各出張所管内ごとに、同一問題について県下一せいに筆答試問を実施し、有能適格者の選考抜てきにつとめた。

本年はへき地、農山村に勤務されているものの中からも、小20名、中4名の新任校長が抜てきされたこと、さらに女子校長1名の新任をみたことは将来に明るい希望を与えたものと信ずる。

5 教頭の採用について

教頭の新採用については、その職務の重要性にかんがみ、校長の選考に準じ慎重を期したが、校長と同様管理職であるという立場から適格者を得るようにつとめた。農山村、へき地には特に新進気鋭の有能な教頭の配置につとめた。

6 交流について

校長の交流については校長職の重要性を考慮し、全県の立場から適材を適所に配置し、刷新充実を期する意味をもって、広域にわたって行なうよう努めた。特に学力向上の面から地域性を考慮して配置するよう努めた。

教頭についても校長に準じて行なうよう努めた。

教職員については、都市と農村、へき地と平地、他管内、学校種別間の交流を推進し、教育能率の向上を図るため円滑な交流が行なわれるよう努力した。

事務職員と養護教員についても、適正に配置されるよう交流につとめた。

交流についてかえりみると

- (1) 教育効果第一主義の交流に主眼をおいて実施したが、まだ希望人事の傾向がのこされている。
- (2) へき地と平地との交流は各管内ごと、へき地区分を設定し、歩調をそろえて計画的に、しかも全県的に実施したが、今後も継続的に推進したい。特にへき地勤務者よりの抜てきは明るい希望を与えた。
- (3) 小中学校より県立学校に約200名の配置替があったが、小中学校教員組織の低下を来たさないよう慎重な配慮がなされた。しかし必要教員の確保については今後とも検討したい。
- (4) 他管内との交流については教員定数の減を生じた管内もあったが、1対1の交流を解消しながら推進したことは喜ばしいことである。
- (5) 他県交流も相当数の実現をみたが、今後でもできるだけ促進したいと考えている。

第4節 県立学校教職員の任用

1 新採用について

高等学校教員の採用志願者は、大学新卒者および中学校現職者、他県現職者、その他をあわせて約800名に達したが、この半数の400名は本県中小学校現職者で占められていた。

採用志願者の総数からみれば採用にじゅうぶんな教科別に見ると極めて不均衡であって、特に工業科、数学科、理科のうち物理、化学等では優秀人材の確保は困難な状態にあった。しかし、中小学校からの転補や高校教職員の配置転換によって、一応学校運営に支障ない必要数の確保ができたのに反し、社会科等においては、志願者の一部を採用したに過ぎない状態となった。

また、工業関係の実習助手および技能員の採用についても、工業科教員同様人材確保に困難な状態にあり、高校急増期中の教職員の確保には計画的に最大の努力を傾注しなければならないと考える。

2 校長の新採用

県立高等学校においては、新設4校があり、さらに部からの独立3校があったので合せて高校が増加し、加えて9名の校長退職があったために、校長の新任15名と壘学校からの転補1名の異動となり、これに伴って壘学校1名の新任校長が生れた。

また、校長人事に伴って部長1名、副校長3名、教頭定時制主事28名が新任または転補された。

校長および管理職の人事に当っては定時制教育関係、特殊教育関係および女子教員等広く人材を求めて抜てき登用し、管理職人事の刷新をはかったものである。

3 交流について

今年度末人事は教員の人材確保のため新採用が中心となった観があるが、新設校の設置に伴う異動や、多数の新任教員の採用による年令、経験年数等の均衡のための異動に加えて、都市と周辺校間、全日制と定時制間の交流につとめ、その件数150におよぶ等、教育効果第一主義の方針によって教職員配置の適正化に努力いたした次第である。

第5節 教職員の免許

教育職員免許法は、教育職員免許状の授与方法として、大学における学校教育による教員養成と、教員が現職に在りながら研修を積むことによって、上級または異種の教育職員免許状を取得する方法をとっておる。

当委員会としては、前者については県内における教員養成課程を有する大学の卒業生ならびに現職教員で通信教育により大学の教員養成課程を修了または卒業した場